

もりやま景況調査



令和2年4月～令和2年6月期

昨年の同期との比較						
	業況		売上高		採算(経常利益)	
	4～6月期動向		4～6月期動向		4～6月期動向	
全体	▲ 51.9		▲ 46.2		▲ 46.2	
小売業	▲ 64.3		▲ 64.3		▲ 64.3	
製造業	▲ 50.0		0.0		▲ 30.0	
建設業	▲ 30.0		▲ 60.0		▲ 30.0	
サービス業	▲ 57.1		▲ 57.1		▲ 50.0	
卸売業	▲ 50.0		▲ 25.0		▲ 50.0	

DI 指数	
30 以上	
10 以上 30 未満	
▲ 10 以上 10 未満	
▲ 30 以上 ▲ 10 未満	
▲ 30 未満	

※ 調査の結果を示す指標としてDI指数 (Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値) を用いた

令和2年4月～6月期の調査結果では、前回(令和2年1月～3月期)の数値と比較して、業況はほぼ横ばい、売上高は低下、採算は上昇という結果となった。(下記グラフ参照)

ただし、令和2年7月～9月期見通しは全ての指標で数値が低下しており、厳しい状況が続くと見込まれている。

<自由意見>

- ・ 事業ごとにコロナの影響などばらつきが非常に大きく、生産調整を実施せざるを得ない工場がある。
- ・ ベトナム海外研修終了生が帰国できない。生活支援などで困っている。
- ・ 当面の民間受注はコロナ前受注確定分で、今後発注元の資金難により遅れて影響が出る可能性が高い。
- ・ とにかく元の状態に戻らないと経営がもたない。
- ・ ゆっくりかまえて開き直った経営をしている。(一部抜粋)

その他、調査結果の詳細については当所ホームページをご覧ください。

<http://www.moriyama-cci.or.jp/management/survey.html>

